りんご生産情報第11号
（９月14日～10月４日）

令和６年９月13日発表
青森県「農林水産力」強化本部

トキの収穫は適期に！
病害虫被害果が混入しないよう選別の徹底を!!
風害、鳥害対策を万全に!!!

Ⅰ　概　要

９月11日現在の果実肥大は、各品種とも平年並から平年を上回っている。

トキの収穫始めは黒石で平年並の９月30日頃からと見込まれる。熟期が揃わないので、「収穫時の標準指標」を目安に「りんご黄色品種青森県標準カラーチャート」を利用して３回程度に分けてすぐりもぎを行う。果実の着色や食味を確認し、味をのせて収穫する。未熟なりんごの早出しはしない。

シンクイムシ類など病害虫被害果は健全果に混入しないよう徹底して選別する。

着色手入れや除袋の際に、肥大の劣る果実や形の悪い果実、病害虫被害果、さび果等の摘み取りを実施する。

台風や強風に備え、防風網の点検、補強などの風害対策をしっかり行う。

ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。

報道機関用提供資料	
担 当 課 担 当 者	りんご果樹課 生産振興グループ　GM　小笠原　宜弘
電話番号	直通　０１７－７３４－９４９２ 内線　５１４６
報 道 監	農林水産部　次長　栗林　豊 内線　４９６７

Ⅱ　りんご生産情報

1　果実肥大、果実熟度、作業の進み

（1）果実肥大

各品種とも平年並から平年を上回っている。

○果実肥大　（９月11日現在、横径cm、平年比%）

地　域	年	つがる	ジョナゴールド	ふ　じ
黒　　石	本　年	9.2	－	8.1
（りんご研究所）	平　年	8.9	－	8.0
	前　年	9.3	－	8.0
	平年比	103	－	101
青森市浪岡北中野	本　年	－	－	8.6
（東青地域県民局）	平　年	－	－	7.8
	前　年	－	－	8.0
	平年比	－	－	110
弘前市独狐	本　年	－	8.6	8.6
（中南地域県民局）	平　年	－	8.5	8.0
	前　年	－	8.3	8.5
	平年比	－	101	108
板柳町五幾形	本　年	－	－	8.9
（西北地域県民局）	平　年	－	－	8.0
	前　年	－	－	9.1
	平年比	－	－	111
三戸町梅内	本　年	－	－	8.7
（三八地域県民局）	平　年	－	－	7.8
	前　年	－	－	8.5
	平年比	－	－	112

注）各県民局のデータは農業普及振興室の生育観測ほ調査データ

（2）トキの果実熟度

９月13日現在、黒石では平年と比較して、糖度及び酸度は高く、硬度はやや高く、ヨード反応及び表面色指数は同程度である。総合的に見て、熟度は平年並と見込まれる。

○トキの熟度の進み　（調査月日：９月13日）

地　域	年	果重（ｇ）	表面色指数	硬度（ﾎﾟﾝﾄﾞ）	糖度（brix%）	酸度（g/100ml）	ﾖｰﾄﾞ反応指数
黒　　石	本年	266	1.4	18.5	14.6	0.312	3.0
（りんご	平年	265	1.3	17.8	13.6	0.271	3.0
研究所）	前年	270	1.7	17.5	13.5	0.233	2.5

注１　平年：2013年～2023年の11か年平均。
　２　表面色指数：「りんご黄色品種青森県標準カラーチャート」指数１～６
　３　ﾖｰﾄﾞ反応指数：ﾖｰﾄﾞﾃﾞﾝﾌﾟﾝ反応指数０～５（小さい数値ほどでんぷんが少ない）

（３）作業等の進み（９月11日現在）

つがるの収穫は終盤に入っている。

中生品種の着色手入れ、摘果の見直しが行われている。

２　作業の重点

（１）中生種の収穫前落果防止対策

例年落果がみられないトキやジョナゴールドなど中生種で収穫前落果がみられたら、果肉の軟化しにくいヒオモン水溶剤を散布する。なお、散布後４日間は収穫できないので注意する。

（２）中生種の収穫

トキの収穫始めは黒石で平年並の９月30日頃からと見込まれる。早生ふじの収穫始めも平年並の10月１日頃からと見込まれる。

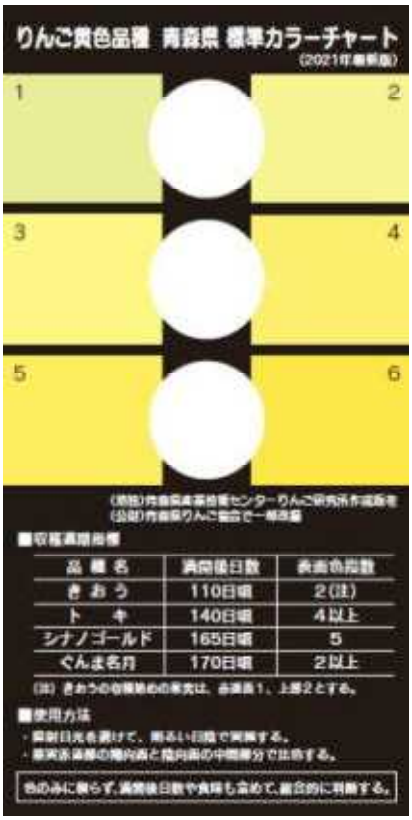
地域によって収穫適期が前後することから、最寄りの農協等の熟度調査結果を参考にする。

果実の着色や食味を確認し、味をのせて収穫する。未熟なりんごの早出しはしない。

ア　トキ

熟期が揃わないので、「トキの収穫時の標準指標」を目安に「りんご黄色品種青森県標準カラーチャート」を利用して３回程度に分けてすぐりもぎを行う。

１回目の収穫は表面色指数３～５の果実が全体の半量程度に達してから行い、指数４以上の果実を収穫する。２回目以降は指数４に達した果実を速やかに収穫する。指数５以上の果実は、貯蔵中に軟質化する場合があるので即売向けとする。



▲「りんご黄色品種青森県標準カラーチャート」

【お問い合わせ先】

（公財）青森県りんご協会

電話　0172-27-6006

トキの収穫時の標準指標

硬度	糖度	ヨード反応	食味
14～15ポンド	14%以上	1.5以下	４以上（良好）

注）食味：指数１（未熟）～５（非常に良好）

イ　早生ふじ

収穫時期が早すぎると糖度が低く、食味が劣る。遅すぎると果肉が軟化し、貯蔵力が低下するので、地色を見て２回くらいに分けて収穫する。

早生ふじの収穫時の標準指標

硬度	糖度	ヨード反応	食味
14～16ポンド	13%以上	２以下	3.5以上

（３）山選果の徹底

山選果は、十分な明るさの下で、果実全体を確認して行う。

日焼け果、さび果などは、出荷先の基準により選別・出荷する。

シンクイムシ類の被害果を流通させないために、収穫した果実は徹底して選別する。

特にモモシンクイガによる、がくあ部付近の食入痕や滴痕を見逃さないように注意する。

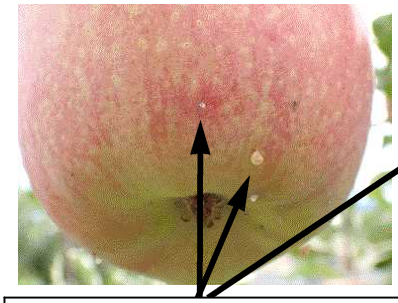


図１　滴痕
（食入痕に生じた滴が乾燥したもの）

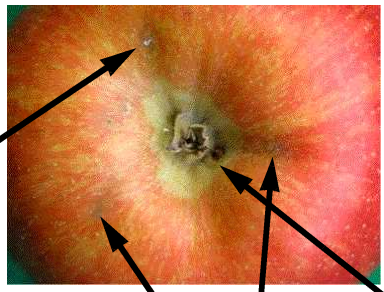


図２　幼虫の食入痕

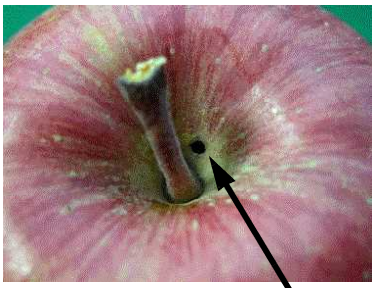


図３　老熟幼虫の脱出口

（写真提供：（地独）青森県産業技術センターりんご研究所）

（４）収穫した果実の管理

収穫した果実は、すみやかに冷蔵施設への搬入や出荷を行う。

（５）中・晩生種の着色手入れ

シナノスイート及びジョナゴールド（無袋）の着色手入れは、９月20日頃から行う。

早くからの強い葉摘みは品質低下を招くので行わない。ある程度着色した頃から始め、収穫までに２回程度に分けて行う。

摘葉剤ジョンカラープロを使用する場合は、ふじのみとし、使用時期は「収穫40～50日前」とする。散布後30日間は収穫できないので注意する。

（６）日焼け対策

日焼け果の発生が懸念される場合は、遮光資材を樹上に被覆する。遮光資材は日焼けの心配がなくなり次第取り外す。

（７）除袋

除袋は、ジョナゴールドで９月15日頃～25日頃にかけて、ふじで９月20日頃～10月５日頃にかけて行う。

着色むらをなくし、リンゴコカクモンハマキの食害を防ぐため、外袋をはぐ時は、果実に密着している葉も摘み取る。

二重袋の内袋は、日焼けを発生させないため、曇天か晴天の日中（10時～14時）にはぎとる。

（８）果実疫病対策

収穫用のかごや箱の土はあらかじめ洗い落としておく。

降雨時の収穫は行わない。やむを得ず収穫する場合は、果実に泥が付着しないように注意する。地面に落ちた果実は収穫した果実に混入しない。収穫した果実は長く野積みをしない。

（９）「９月中旬」の特別散布（中・晩生種対象）

すす斑病・すす点病の発生が例年多い園地や９月中旬に長雨が見込まれる場合は、黒石、弘前、三戸で９月15日頃に特別散布を行う。

薬剤散布に当たっては収穫前日数や年間使用回数などに注意する。散布むらが生じないよう基準散布量を守り、降雨前の散布を徹底する。

「９月中旬」の特別散布（中・晩生種対象）

地域	散布時期	薬剤名	散布量/10ａ
黒石 弘前 三戸	９月15日頃	オーソサイド水和剤80　800倍 又はストライド顆粒水和剤　1,500倍	５００ℓ

（10）褐斑病対策

一部園地で発生が見られている。自園地の状況を確認し、被害葉は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

図１　褐斑病の被害葉

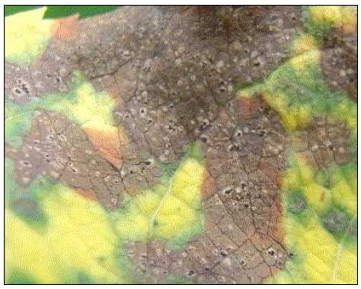


図２　病斑上に虫糞状の黒い粒（分生子堆）を生じる

（写真提供：（地独）青森県産業技術センターりんご研究所）

(11) 炭疽病、輪紋病

被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。

(12) 腐らん病対策

本年も発生が目立っている。

摘果後のつるや、収穫時につる折れ、つる抜けとして残ったつるから病原菌が侵入するので、つるが果台に残らないように丁寧に収穫する。つるが残った場合は必ず果台から取り除く。

枝腐らんは、見つけ次第切り取り、適切に処分する。胴腐らんは、再発病斑を含め、見つけ次第、次のいずれかの処置を行う。

なお、処置方法については、青森県産業技術センターのYoutube公式チャンネルに掲載している。（https://www.youtube.com/@aitcofficial/videos）

ＱＲコード１：
トップジンM
オイルペースト

ＱＲコード２：
バッチレート

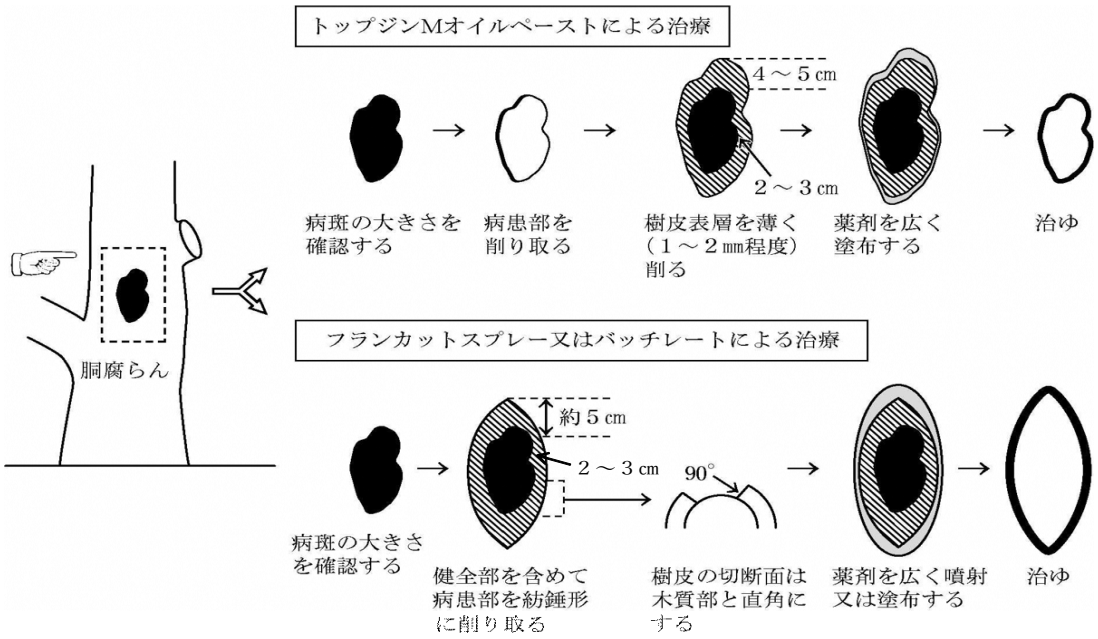
ＱＲコード３：
泥巻き法

ア　トップジンMオイルペースト、フランカットスプレー又はバッチレートを使う場合は、下図のとおり薬剤ごとに適切な方法で処置を行う。

イ　泥巻きを行う場合は、水を加えて団子状にこねた泥を病斑部よりも５～６㎝広めに、３～５㎝の厚さに貼り付ける。さらにその上をビニール又はポリエチレンフィルムなどで被覆し、内部の泥の乾燥を防ぐようにして約１年間そのままにしておく。病斑部を軽く削り取ってから泥巻きを行うと一層効果的である。

なお、火山灰土壌を使用する場合は、容積比で土が９に対してベントナイト（土壌改良資材の一種）１を加えてこねると粘着性が増し、泥巻き作業の効率が良くなる。泥を作るには、土とベントナイトをよく混ぜてから水を入れて練る。この際、ベントナイトは量が多すぎると樹皮が腐敗し、治ゆ効果も低下するので、加える量を誤らないようにする。

ウ　胴腐らんの発病が著しい樹は、伝染源になるので積極的に伐採する。



削り取り法による胴腐らん治療の作業手順

(13) 斑点落葉病対策

急増が懸念される場合は、ポリオキシンＡＬ水和剤1,000倍も使用する。

ポリオキシンＡＬ水和剤は薬剤耐性発達の懸念があるので、連続散布を避ける。

(14) 黒星病対策

自園地の状況を確認し、被害葉、被害果は見つけ次第摘み取り、適切に処分する。二次伸長葉に黒星病の発生が見られた場合は、来年の感染源となるので、必ず摘み取って処分する。

(15) シンクイムシ類対策

被害果をそのまま園地に放置すると次世代の発生源となるので、被害果は見つけ次第摘み取り、７日間以上水に漬けるか、穴を掘り10cm以上の土をかぶせて埋める。

ナシヒメシンクイの発生が多い園地では、９月以降も防除剤を使用する。

(16) リンゴコカクモンハマキ対策

幼虫の発生の多い園地では、９月上旬または中旬にスピノシン剤を使用する。

発生が多い場合は、果実に接触している葉を早めに摘み取り、果実被害の軽減に努める。

リンゴコカクモンハマキに対する殺虫剤の適用表（９月以降）

薬剤名		倍数	使用時期	年間使用回数
スピノシン剤	ディアナWDG	10,000倍	前日	２回
	デリゲートWDG	10,000倍		

(17) クワコナカイガラムシ対策

被害が多く、袋の汚染が多い場合は、早めに除袋して被害の軽減を図る。

(18) 風害対策

台風の接近や強風に備え、防風網やわい性台樹の結束状況などを再度点検し、補強や取り替えを行う。

幹や主枝などに空洞が生じている樹や腐らん病の被害を受けた枝や樹は、支柱で支え、縄などで補強する。幼木は倒伏しやすいので支柱を立てて結束する。

(19) マメコバチの巣箱の回収

本年はマメコバチの少ない園地が多くみられているので、増殖を図るため適正な飼養管理に努める。

マメコバチの巣箱を回収していない園地では、すみやかに巣箱を回収し、直射日光があたる所や高温になる所を避け、風通しのよい日陰に保管する。地面からできるだけ離して、巣筒の内部が過湿にならないように注意する。

冬季に温度が上がる場所（暖房する部屋や日光の入る閉め切った部屋など）には絶対に入れない。

(20) 土壌乾燥対策

苗木や若木は乾燥の影響を受けやすいので、園地の状況を把握し、干天日（降水量５㎜未満）が２週間程度続いたら、１㎡当たり20ℓ程度をかん水する。

また、草からの蒸散を防ぐため、草刈りをこまめに行い、樹冠下に敷き草する。

(21) 鳥害対策

野鳥による被害を防ぐため、以下の対策を行う。

ア　ムクドリ（サクラドリ）、ヒヨドリ、カラスなどの被害が大きいところでは、防鳥網を使用する。防鳥網の網目は35㎜以下とする。

イ　防鳥糸を張り巡らす場合は、鳥の種類に合わせた間隔（カラスの場合１ｍ以下）で張るようにするが、ヒヨドリは体が小さく、さらに飛行能力が高いため効果は低い。

ウ　ディストレスコールを使用した音声機器や爆音機、かかしなどの防鳥器具は慣れが生じやすいので、ひとつの器具を長期間使用せず、様々な器具を組み合わせながら短期間で変えるようにする。

3　一般作業

（1）草刈り　（2）早生種の収穫　（3）中生種の着色手入れ

4　今後の作業（10月５日～10月23日）

（1）中生種の収穫　（2）晩生種の着色手入れ　（3）樹上選果

（4）病害虫対策　（5）風害対策　（6）鳥害対策　（7）野ネズミ対策

《　秋の農作業安全運動展開中！（９月～10月）》

急がず、焦らず、安全な農作業を！

脚立作業は、安定した場所にしっかり固定し、天板上での作業は行わず、脚立から身を乗り出さないようにしましょう。

機械作業は、ほ場の出入り口などの段差や傾斜による転倒に注意するとともに、安全ベルト着用など、転落対策を徹底しましょう。

《　「あおり９」の生果実流通　》

現在、「あおり９」は「彩香」の商標名で販売されていますが、令和７年10月27日で商標の使用契約が満了となり、「彩香」を使用できなくなります。

令和７年10月27日以降は、「あおり９」で販売してください。

《　ツキノワグマ出没警報発令中！　》

ツキノワグマ出没警報発令中です。農作業は、１人での作業を避け、ラジオやクマよけスプレーを携帯するなど、人身被害の防止に努めましょう。

《　環境にやさしい農業に取り組んで、みどり認定を受けましょう　》

みどりの食料システム法に基づき、土づくりと化学肥料・化学農薬の使用低減などに取り組む農業者の認定制度【みどり認定】が始まっています。認定を受けると、設備投資の税制優遇や国庫補助事業の採択優遇などのメリットがあります。

申請・お問い合わせは、最寄りの地域県民局地域農林水産部にご相談ください。

https://www.pref.aomori.lg.jp/soshiki/nourin/noen/midori_kihontekinakeikaku.html

《　農薬使用基準の遵守　》

農薬を使用する場合は、必ず最新の農薬登録内容を確認する。

農林水産省「農薬登録情報提供システム」（https://pesticide.maff.go.jp/）

農薬の使用にあたっては、事前に周辺住民に対し、農薬の散布日時や使用者の連絡先等を十分な時間的余裕を持って知らせる。また、農薬の飛散により、周辺作物や近隣の住宅等に被害を及ぼすことのないように農薬飛散低減対策に留意して散布する。

《　りんご属及びなし属植物の中国産花粉を使用しないで！　》

中国において、火傷病の発生が確認されたため、中国産なし、りんごの花粉等の輸入が停止されました。

既に輸入された中国産花粉を介して火傷病がまん延することがないように、生産年にかかわらず、中国産花粉や来歴不明の花粉を入手・使用することがないようにお願いします。

《　青森県総合防除計画　》

総合防除とは、有害動植物の発生及び増加の抑制並びにこれが発生した場合における駆除及びまん延の防止を適時経済的に講じることです。

青森県総合防除計画では、農業者が遵守すべき事項（「遵守事項」）の対象として、りんご「モモシンクイガ」を設定しているので、適切な防除に努めましょう。

※県は、モモシンクイガの防除が適正に行われるように、指導及び助言、勧告、命令を行うことができ、命令に従わない農業者は30万円以下の過料に処されます。

○りんご「モモシンクイガ」の遵守事項（一部要約）

（1）予防に関する措置

被害果は必ず処分するとともに、交信撹乱剤の設置や袋かけを行う

（2）判断、防除に関する措置

被害果は見つけ次第摘み取り処分するほか、薬剤散布による定期防除を行う

詳しくはこちらをご覧下さい。

・青森県総合防除計画（https://www.nounavi-aomori.jp/farmer/archives/8140）

《　農業保険に加入し、農業経営に万全の備えを!!　》

農業保険には、果樹共済、農業経営収入保険などがあります。自分の経営にあった保険を選択、加入して、自然災害をはじめとしたリスクに備えましょう。

詳しくは、お近くの農業共済組合まで、お問い合わせください。

園地を見回るなど、りんごの盗難に注意しましょう

次回の発行は令和６年10月４日（金）の予定です。